

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

### I 調査の概要

#### 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査の対象

小学校第6学年・義務教育学校第6学年の児童

#### 3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・児童に対する調査
  - ・学校に対する調査

#### 4 調査日時

令和4年4月19日（火）

### II 学力調査の結果【小学校・義務教育学校前期課程】

#### 1 教科に関する調査結果（平均正答率※）

	国語	算数	理科
全 国	65.6	63.2	63.3
広島県	67	64	66
府中市	65	63	63
府中明郷学園	60	62	66

※平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

## 2 調査問題の趣旨・内容

区分	調査問題の趣旨・内容例
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し言葉と書き言葉との違いを理解する。</li> <li>○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。</li> <li>○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える。</li> <li>○互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。</li> <li>○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。</li> <li>○登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。</li> <li>○表現の効果を考える。</li> <li>○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える。</li> <li>○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分のよいところを見付ける。</li> <li>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。</li> <li>○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること。</li> <li>○二つの数の最小公倍数を求めることができること。</li> <li>○示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。</li> <li>○示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。</li> <li>○百分率で表された割合を分数で表すことができる。</li> <li>○示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。</li> <li>○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる。</li> <li>○表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。</li> <li>○目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。</li> <li>○加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイントの求め方と答えを記述できる。</li> <li>○図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している。</li> <li>○示された図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。</li> <li>○自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。</li> <li>○昆虫の体のつくりを理解している。</li> <li>○提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。</li> <li>○観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。</li> <li>○メスシリンダーという器具を理解している。</li> <li>○メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。</li> <li>○自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。</li> <li>○自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。</li> </ul>

<p>○日光は直進することを理解している。</p> <p>○問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している。</p> <p>○自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。</p> <p>○実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。</p> <p>○観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。</p> <p>○予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。</p> <p>○観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。</p> <p>○水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

【国語】特徴と課題
<p>◇「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」問題〔3 四〕（正答率：90.6% 全国平均：77.9%と比較して+12.7p） 読みやすい文章にするために、相手の読みやすさを考えて、どのような点に気をつけて書けばよいのか理解している。</p> <p>◆「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中の中で正しく使う」問題〔3 三 イ〕（正答率：37.5% 全国平均：58.7%と比較して-21.2p） 日々の学習の中で漢字を覚えたり、使ったりすることが十分にできていない。</p> <p>◆「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題〔1 四〕（正答率：34.3% 全国平均：47.7%と比較して-13.3p） 自分の立場を明確にし、他者の意見も取り入れながら自分の考えをもつことに課題がある。</p>

◇…相当数の生徒ができていない点 ◆…課題のある点

【国語】改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や言語を使う力の育成として、「朝読書・朝学習・ぐんぐんタイム（放課後の学習時間）」を充実させる。漢字力低下の背景に、ICT の利用時間の増加による読書時間の低下があると考えられる。そこで、地域の読書ボランティアや司書教諭と連携して、読書への興味関心を高めたり、図書サポート委員の企画で主体的な読書活動の推進を測ったりすることで、「読書の習慣化」の強化をする。また、ぐんぐんタイムでは、漢字ドリルや漢字ノートをただ書かせるのではなく、小テストを組み込んで数値化し、間違えたところを繰り返し練習させることで、正しく漢字を覚えさせる。</li> <li>・話す力や聞く力の育成として、普段の授業の中で、対話の場を設定したり、言語活動としてアウトプットする活動を仕組んだりする。対話の場の設定として、自分の立場を明確にすることを意識させること、また、話し手の意図を聞いた上で考えを再考することを指導する。アウトプットの活動として、他者（友達・教師・教材文など）から得て考えたことを表現できる言語活動を設定する。</li> </ul>

### 【算数】特徴と課題

- ◇「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる」問題〔3 (1)〕(正答率 81.3% 全国平均：75.3%と比較して+5.0p)  
表の各欄と合計欄の意味を理解し、尋ねられた項目に当たる数を導き出すことができている。
- ◆「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」問題〔1 (4)〕(正答率 28.1% 全国平均：34.8%と比較して-6.7p)  
示された場面において、数を大きく見たり小さく見たりするなど、目的に合った数の処理の仕方を考えることに課題があるといえる。
- ◆「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる」問題〔4 (4)〕(正答率 50.0% 全国平均：57.6%と比較して-7.6p)  
図形を構成する要素やそれらの関係に着目し、作図の手順からどのような図形ができるかについて判断することが課題といえる。

◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点

### 【算数】改善策

- ・示された場面において、数を大きく見たり小さく見たりするなど、目的に合った見積りの仕方を考えさせる必要がある。そのため、学習したことがどんな場面で生かされるのかを日常的に、日常の事象における場面に着目させながら、その場面の目的に合った数の処理の仕方を考えさせる。
- ・作図の手順から、図形を構成する要素を見つけられていなかったことから、作図する機会を積極的に授業に取り入れる必要がある。また、図形の意味や性質をもとに、作図の仕方を何種類か考え、それを筋道立てて説明させることで図形の構成要素に着目できるようにする。

### 【理科】特徴と課題

- ◇「メスシリンダーという器具を理解している」問題〔2 (1)〕(正答率 96.9% 全国平均：67.8%と比較して+29.1p)  
「メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている」問題〔2 (2)〕(正答率 84.4% 全国平均：70.0%と比較して+14.4p)  
実験器具の名称やその正しい扱い方に対しては理解が深いことがうかがえる。
- ◆「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」問題〔4 (2)〕(正答率 46.9% 全国平均：64.5%と比較して-17.6p)  
問題に対する予想や仮説を基に、観察の結果を見通して問題を解決することができていない。
- ◆「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」問題〔4 (3)〕(正答率 34.4% 全国平均：45.5%と比較して-11.1p)  
提示された資料を様々な視点で分析、解釈し、自分の考えをもつことに課題がある。

◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点

## 【理科】改善策

- ・実験をする際は、予想や仮説を立てさせ、結果から考察させる。記録の取り方のポイントを指導したり、何を記録し、どういった結果になるのかも考えさせたりする。また、自分の考えとは異なる他者の予想も捉え、予想を確かめるにはどのような結果になればよいのか考えさせることで、結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を自分で構想できるようにする。
- ・資料から数量や変化の大きさなどの見取り方を指導し、その特徴を考えさせることで、資料を分析、解釈する力を付けていく。読み取ったことをから分析し自分の考えをもたせ、それを表やグラフなど様々な形で表現させ、他者と意見交換することで、自分の考えを広めたり深めたりする。また、誤答から考える場を設け、必要な特徴を見つけ、自分の考えをもつことができるようにする。

### Ⅲ 学習状況調査の結果

#### 1 学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目
(33) 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使っていますか。（インターネット検索等）（本校 77.1%、全国 52.7%）
(29) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。（本校 71.5%、全国 27.6%）
肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目
(23) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）：全く読まない割合（本校 57.1%、全国 26.3%）
(11) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。（本校 54.2%、全国 72.5%）
(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。：3時間以上の割合（本校 45.7%、全国 30.7%）

#### 2 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

クロームブックの導入以降、授業のみならず、休憩時間などでも ICT の活用が見られた。タイピングツールで遊ぶ姿もよく見られ、総合的な学習の時間や社会科の調べ学習、1日の振り返りを打ち込む場面など、素早く的確に自分の考えや思い、調べたことを表現できる児童が多い。地域行事への参加率も、全国平均値より高く、CS（コミュニティ・スクール）の取り組みをはじめ、「地域とともにある学校」への転換が進んでいると考える。

一方で、読書率が低下していることは課題である。併せて、3時間以上のテレビゲームの時間は全国平均値より高い傾向にある。保護者の方々からのつぶやきでも、「時間制限を設けているが、守れない」や「家庭学習に使っていると、保護者が管理することができていない」等の声上がり、ICT 活用の時間や家庭読書の推奨など、学校と保護者が密に連携をしていかなければならないと考える。また、挑戦しようとする児童の割合も低かった。家庭や学校で、「成功経験」を増やすのではなく、「失敗経験」を多く積ませる活動や体験が必要であると考えられる。